

第60回テーマ：
六甲山石の宝殿と修験道



石の宝殿前で宮司の山下さんたち

講演内容

- 石の宝殿に奉仕して22年
- 石の宝殿の資料を後世に伝えたい
- 「神さんのごほうび」を日々実感

実施日：平成20年3月15日（土）
午後1時～3時30分
場 所：六甲山YMCA里見ホール



講師：山下 清志さん
プロフィール

1944年西宮市出身(63歳)。メーカー勤務を経て、神職の資格を取得し、父親の跡を継ぐ。石の宝殿に奉仕するようになって22年。毎週末は石の宝殿に住んで、周辺地域の整備などを行っている。

雪解け

思えば毎週のように雪が積もっていた今年の冬の六甲山。積もっていた雪は消え、春になりました。

午前中の整備活動には10名が参加。先月は大雪で区画の確認もままありませんでしたが、今月は整備エリアの区画割りや、照度測定など、作業もはかどりました。



アセビも開花間近です→

ホラ貝で盛り上がったセミナー

市民セミナーは石の宝殿宮司の山下さんが講師です。山下さんは会社勤務の傍ら、週末にボランティアで宮司をされています。

山下さんのホラ貝をお借りして、ホラ貝演奏を体験しました。参加者の皆さんには真っ赤になってホラ貝を吹く方も。音が出た人は少なかったようですが、山下さんの気さくなお人柄と相まって、いつにも増してアットホームな雰囲気セミナーになりました。



ホラ貝

石の宝殿は六甲山上の文化遺産

石の宝殿は、古来は巨石信仰の場所としてはじまり、約400年前に麓の集落の人たちによって、雨乞いのための石の祠が建てられたそうです。

どこの神社にも属さず数百年受け継がれてきた、民間信仰の神社としては珍しい存在だそうです。今でも他府県から探し当ててこられる人もいますそうです。

山下さんはサラリーマンをされていて、宮司になる気はなかったそうですが、病床のお父さんに頼まれて継がれる決心をされました。以来22年、最近では「神さんのごほうび」を実感されているそうです。

石の宝殿への関心を深めた

山上の東端に位置し、周辺施設も少なく、知る人ぞ知るといった石の宝殿が長い歴史を持つ文化遺産ということを知り、石の宝殿に行ってみたくなりました。

今回で市民セミナーは無事5年目、計60回が終了しました。来年度もバラエティ豊かな講師をお呼びしております。ぜひセミナーにお越し下さい。来月は自然保護センターに会場を移して開催します。

※詳しくは、1、2ページをお読みください。

参加の感想 田中 弘子さん

グループで「石の宝殿」の紙芝居を書いております由に、今日の宮司山下さんのお話はすごく参考になり、おもしろく聞かせて頂きました。人々の思いをこめて宝殿が作られた事や修験者の自然と共に生き、自然の力を超越する為に修行するなどの事を知りました。

法螺貝を吹く経験もさせて頂き、喜びも感じましたが、むずかしいです。色々貴重なお話をありがとうございました。



主催：六甲山自然保護センターを活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

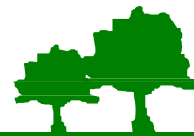
後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】

コベルコ環境保全基金、セブン-イレブンみどりの基金
ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金
しみん基金・こうべ



第60回テーマ：六甲山石の宝殿と修験道



第60回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：13:00～13:15
2. 講演：13:15～14:30
3. 休憩：14:30～14:45
4. 質疑応答：14:45～15:10

講演

- 石の宝殿に奉仕して22年
- 石の宝殿の資料を後世に伝えたい
- 「神さんのごほうび」を日々実感



石の宝殿

講演の挨拶(山下さん)

週末に六甲山上の石の宝殿でご奉仕しています。ご奉仕はボランティアなので平日は仕事を持っています。今日はよろしくお祈りします。



山下さん

講演内容

1. 石の宝殿の歴史

■石の宝殿は古代から信仰の対象だった

石の宝殿の近くには大きな岩があり、磐座(いわくら)と呼ばれる巨石信仰の地でもあった。民間信仰なので史料がないが、縄文時代や弥生時代から信仰はあったのだと思う。



石の宝殿(戦前の様子)

石の宝殿の石の祠には慶長3年(1598年)と彫られている。石の宝殿の位置は、麓の集落を流れる川の水源地に近い。水源地と古来からの巨石信仰が結びついて、雨乞いの場所として信仰の対象になったのではないかと推測されている。

■石の宝殿は越木岩の集落がつくった

慶長3年当時、越木岩の集落では日照りに悩んでいた。昔は水の獲得は死活問題だった。そこで、六甲山の頂上に雨乞いのための社をつくることになった。越木岩の上新田集落が屋根の部分で、下新田が土台の部分をつ造った。村中総出でそれぞれを山の上に運んで、山上で組み立てた。以後、日照りが続くと山上に登って雨乞いのお祈りをしたと言われていた。

■石の宝殿は庶民の神社

石の宝殿はお地藏さんなどとおなじで、民間信仰の神社。長い間、水乞いをするためだけの場所。街にある神社とは違う。六甲山上は今でもこそ住むことができるが、昔は人が住むことができなかった。庶民の信仰が脈々と数百年にわたって続いている珍しい神社と言える。

■修験の場としての六甲山

修験者とは自然と共に生きる人たち。修験というが大峰山が有名だが、私も10歳の頃、父に連

れられて大峰山で修験をした。六甲山にも戦前までは各地に修験者がいた。私の子どもの頃までは石の宝殿の近くのねこもり谷には修験者がいた。今でも青谷には修験者がいる。

2. 現在の石の宝殿

■正式名称は「白山大権現」

石の宝殿の正式名称は「白山大権現」。いつ頃からそうだったかは分からないが、六甲山から白山が見えるということで白山の名前がついたのだと思う。「六甲山大権現」などの別名もある。

■石の宝殿の行事

①月次(つきなみ)祭	毎月
②お不動さん	毎月
③元旦祭	1月
④春の大祭	4月
⑤菊理姫(くくりひめ)の大神	9月
⑥秋の大祭	11月

- ②お不動さん：近くの川の水源地のところに不動様がいらっしゃる。毎月お不動様を祀ってお経をあげている。
- ③元旦祭：この頃はとても寒い。父の跡を継いだ頃、2～3年誰も住んでいなかったため隙間風が吹いてとても寒かった。
- ⑤菊理姫の大神：菊理姫は白山の祭神。



護摩を焚く様子

大きなお祭りの後には無礼講で神様と一緒に騒ぎ、食事をする「直会(なおらい)」がある。これなしでは祭りは半分だけ。会社と同じで、ざっくばらんな飲み会に重要な部分がある。



みんなで「ホラ吹き」体験!

山下さんのホラ貝をお借りして、ホラ貝吹きをしました。なかなか音が出ませんでした。一生懸命吹いているうちに、音が出た人もいました。

3. 石の宝殿に奉仕して22年

■わたしに引き継がれるまでの石の宝殿

民間信仰なので史料がないので、詳しいことはわからないが、長い間手入れされていなかったのだと思う。

私の前の宮司は父だが、その前の代の人から定期的に管理するようになったようだ。その後、父が跡を継ぐことになった。

■はじめは継ぐ気がなかった

父は荒行の人で、山伏の格好をして日本各地の山を登っていた。小さい頃の私からすると、父は変わり者でしかなく、神社に興味はなかった。

私は学校を卒業後、家を飛び出して呑気にサラリーマンをやっていた。しかし、病床の父に「継いでくれ」と言われて、断れず宮司を継ぐことになった。それから通信教育で神職の資格を取った。引継ぎも何もなく、谷口商店の谷口さんの協力を得て一から出発した。



父と私

■神社はボランティア

私は今も現役の会社員をしている。宮司の仕事は週末にボランティアでやっている。神社には来る人が少ないので、収入はほとんどない。

週末は山に登って掃除や下草の手入れをしている。下草は切るそばから生えてくる。神社に賽銭を集めにくるだけでも大変。

■石の宝殿には何かがある

石の宝殿は何かのついでに来るところではないので、来られる方はよっぽどの方がいる。他府県から探し当てて来られる人もいます。祭りのときには5~60人は集まる。神社らしくないし、ご利益があるわけでもないのに、数百年も維持されてきたのは、この場所に何かがあるからだと思う。私は22年も奉仕してきたが靈感が無いので何も分からない。

質疑応答

雨乞いをする場所は郷単位にあった？：昔は集落ごとに雨乞いをする場所があったと思う。今でも残っているものは少ないだろう。

「なおらい」って？：祭りのあと、皆さんと一緒に食事をする。どこの神社でもやる。魚や野菜、お神酒を神様にお供えして、それを神様と一緒に騒いで楽しく飲む。

石の宝殿の南に巨石がありますが？：石の宝殿で管理している。巨石の下は不思議と気持ちの良い場所で、本を読んだり居眠りしたりするといいい。

まとめ(山下さん)

今私がこうしてやっているのは、来られる皆さんのためです。気持ちよく皆さんが帰れるようにするのが私の仕事です。それは自分のためでもあり、自分の子孫のためでもあります。私は親孝行を何一つせず、死に水もとらなかつた。悪いことはそこら中でしました。今死んだら地獄しかない。何とか食い止めようと、神様に仕えて、人のために尽くして滑り止めをしています。地獄の釜たきぐらいにまわられたら、と思っています。(笑)

参加の感想 林 慶一郎さん

最初、六甲山自然保護センターを活用する会という名を聞いたとき、何となく長い名称だろうと思いました。あとで隣の席の方から由来を聞いて納得しました。



新参のわたしに声をかけて下さった堂馬代表のお話しぶりから、代表の素晴らしいリーダーシップが感じとれました。毎月1回の例会を続けるのは並々ならぬエネルギーです。会の雰囲気もよく、お世話の女性の親切も身に沁みました。

事務局より

六甲山に大切に維持されている見所があることを再発見しました。20年以上もボランティアで奉仕されている山下さん、ありがとうございます。

◆参考・配布資料など

- ・パワーポイント「六甲山石の宝殿と修験道」
- ・レジュメ「六甲山石の宝殿と修験道」
- ・新聞記事、DVD(石の宝殿の紹介)
- ・ホラ貝3つ

石の宝殿

山下 清志 やました きよし
〒665-0812 兵庫県西宮市口谷東 1-41-11
TEL: 0797-80-1814 FAX: 0797-80-1814

◆参加者の声～アンケートより～

- ・生演奏のホラ貝に感動した。地味な活動に頭が下がる。
- ・歴史はこういう風にして守られ引継がれるのでしょね。
- ・宮司様の素朴なお人柄で本心をお聞きできました。
- ・興味深く、楽しく聞くことができました。

◆参加者：21名(50音順・敬称略)

浅井 審一	石田 澄子	植松富士子	尾崎 尚子
久保 順一	黒田 郁子	高橋 敬三	田中 弘子
伊達奈保子	堂馬 英二	堂馬 佑太	中務 勝子
林 慶一郎	藤井宏一郎	藤本 武子	増井 啓治
光宗 智子	村上 定広	森 康博	八木 浄
山下 清志			